

資 料 提 供	
令和3年5月28日	
担 当 課 (担当者)	くらしの安心推進課 (松村、牧野)
電 話	0 8 5 7 - 2 6 - 7 8 7 7

犬の重症熱性血小板減少症候群(SFTS)症例の発生について

令和3年5月25日、犬の重症熱性血小板減少症候群(SFTS: Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome)の症例が県内で初めて確認されましたのでお知らせします。

項 目	内 容	
症 例	犬 11歳	
	飼い主の住所地	米子市
	飼育環境	室内及び屋外
経 過	5月19日	食欲不振
	5月20日	動物病院を受診 食欲不振、発熱、嘔吐、白血球及び血小板の減少が認められた。
	5月25日	国立感染症研究所で検査を実施し、SFTS 確定。
	5月26日	現在は症状が回復している(元気・食欲あり)。

※ 現時点で、飼い主には症状は認められていません。

※ 飼い主のプライバシーの確保に十分な配慮をお願いします。

～重症熱性血小板減少症候群(SFTS)とは～

主にウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染するダニ媒介感染症です。人と動物の共通感染症であり、国内では西日本を中心に人及び動物(犬、猫)の感染症例が報告されています。

※重症熱性血小板減少症候群(SFTS)についての詳細は、裏面に記載しています。

報道機関各位におかれましては、以下の啓発についてよろしくをお願いします。

稀な事例ではあるものの、SFTSを発症した犬や猫から人へ感染する事例が報告されています。ペットがダニに咬まれないようにするとともに、体調不良のペットを取り扱う場合は、次のことに注意してください。

- ペットがダニに咬まれないよう、ダニの駆虫薬を定期的に投与しましょう。
- ペットに付着しているダニは適切に駆除しましょう。
- ペットが体調不良の際は、直ちに動物病院を受診しましょう。
- 体調不良のペットを触る場合は、手袋を着用し、ペットに咬まれないよう注意しましょう。
- SFTSを含めた動物由来感染症の感染を防ぐため、ペットとの過剰な触れ合いは控えましょう。
- 飼い主が体に不調を感じたら、早めに医療機関を受診しましょう。受診する際は、ペットの飼育状況やペットの健康状態についても医師に伝えてください。

<参考>重症熱性血小板減少症候群について

1 発生状況

平成23年に中国で初めて特定された、SFTS ウイルスに感染することにより引き起こされる病気で、ウイルスを保有しているマダニに咬まれることで感染します。

ウイルス自体は以前から国内に存在していたと考えられますが、平成25年1月に山口県で国内初の感染事例が確認されて以降、毎年60～90名前後の患者が報告されています（平成25年3月には感染症法上の四類感染症に指定）。

令和2年12月30日現在、573名の患者が報告されており、うち75名が死亡しています。

なお、県内では令和2年6月8日に初めて人のSFTS症例が確認されています。

また、令和元年4月30日現在、国内における犬猫の発症例は、西日本において猫120例、犬7例が確認されています。

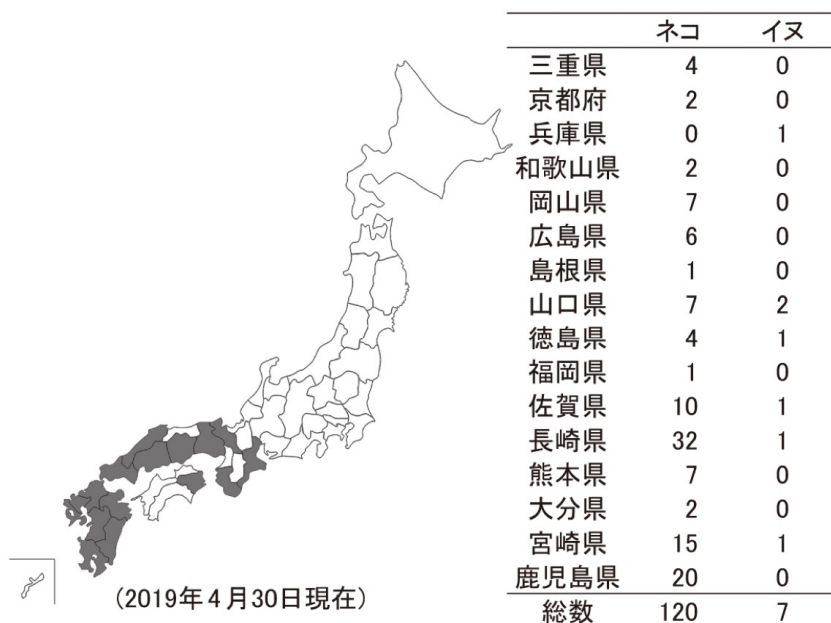


図2. 国内でSFTS発症ネコ・イヌが認められた地域

出典：国立感染症研究所ホームページ

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/allarticles/surveillance/2469-iasr/related-articles/related-articles-475/8986-473r04.html>

2 感染経路

多くの場合、ウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染しますが、近年、稀な事例ではあるものの、発症した犬や猫から人へ感染する事例が報告されています。

3 症状

人の場合、マダニに咬まれてから6日から2週間程度の潜伏期間を経て、主に発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が出現し、時に頭痛、筋肉痛、神経症状（意識障害、けいれん、昏睡）、リンパ節腫脹、呼吸器症状（咳など）、出血症状（紫斑、下血）を起こします。

犬や猫の場合、発熱、消化器症状（食欲不振、嘔吐、下痢等）、血小板減少、白血球減少等の症状が確認されています。

4 治療方法

治療は対症療法しかなく、有効な薬剤やワクチンはありません。